

模擬戦争世界大会参加

西南学院大学

西南学院大学(福岡市)は、創立者であるC. K. ドーシーの遺訓「Seinan, Be True to Christ」(西南よ、キリストに忠実なれ)を建学の精神として受け継ぎ、現在もキリスト教を基盤とした独自の教育を展開している。開学以来、今日に至るまでキリスト教的人間観や世界観に立ち、奉仕の精神を持って社会に貢献する人材を輩出し続けている。

3月7～14日にかけて、インドネシア・テンパサルで開催された「ジャン・ピクテ(Jean Pictet)・コンペ



与えられた役の立場になり切り白熱した討論を繰り広げた

イション(国際人道法・模擬戦争世界大会)に法学部国際関係法学科2年次の井上凛太郎さん(福岡県立ありあげ新世高等学校出身)、内山敬太さん(山口県立山口中央高等学校出身)、松田早矢さん(福岡市立福岡女子高等学校出身)の3人が同大から初めて参加した。

ジャン・ピクテ・コンペイションでは、世界各国から国際人道法について学ぶ学生が集まり討論を行う。一週間に行われたり、実際の戦争をモデルにした架空の題材をもとに、学生が武力紛争の現場に関わる多種多様な役割(兵士・人道支援職員・政府高官など)にそれぞれ分かれてロールプレイを実施。戦争における人道性についてさまざまな角度から深く理解することを試みる。

武力行使自体は国連憲章で禁止されているものの、現代でも戦争は絶えないどころか、世界情勢の悪化や技術の進展により新たな問題が相次いで噴出している。戦争を模擬的に体験するロールプレイでは、室内だけでなく屋外に

も飛び出して、それらの問題を紛争現場さながらの臨場感を持って体感しながら学んでいく。

参加した学生たちは、これまで学修してきた国際法に関する知識を応用するだけではなく、ストレスを克服するための方法や臨機応変に状況に立ち向かう能力など新たな力を身につけていく。参加した学生たちは、世界中の有力校から学生が集まり、極めて高いレベルでの国際交流を図ることができたという。

同大では、「カルディアノイア(KARDIANNOIA)」という法学部・根岸陽太ゼミナールが母体の国際法教育プロジェクトを展開している。プロジェクトでは、赤十字国際委員会(ICRC)主催の国内大会や、平成30年にはアジア地域大会へ出場した経歴を持ち、国内外の同年代の学生たちと切磋琢磨している。国際法教育では、助けが必

要な人を「救う」側の活動に焦点が当てられることが多いが、「救われる側」がどのような痛みを味わっているのかという論理的な感覚がなければ本当の意味での救いにはならない。そこで、同プロジェクトに参加する学生には、まず何よりも「寄り添う」という論理を基本に添えて勉学に励むという。

その一方で、むき出しのナマの現場に置かれた人々に「寄り添う」ためには、心を尽くすことだけでは不十分で、それを現実にするための知恵が必要となる。入管・外交・戦争・裁判といった、さまざまな場面を模擬的に体験し、同プロジェクトでの学びを通して実践的に体得することを目指す。

大会に参加した学生は、今後の学習や人生にとって重要な指針となる経験を帰国後の学習に活かすことが期待されている。